

ドロップ平成 28 年度事業報告

1. 方針

利用者の個別のニーズに応え、地域での生活がより豊かなものになる様、支援を行う。

2. 目標と支援内容

① GH の利用者の余暇支援を充実させる。

ア 利用者の希望を基に、担当職員と相談をしながら、移動支援を実施する。

→利用者からの利用希望に沿って、毎月移動支援の予定を立てて支援に当たった。担当職員と外出時の内容などの引継ぎを行い、楽しく安全に外出できるよう努めた。

イ ドロップ企画の余暇外出を実施し、余暇の幅を広げ、また、利用者同士の交流を図る。

大人数でのバスハイクや旅行以外にも、利用者が様々な体験を出来る様、少人数での外出や旅行なども実施する。バスハイクや旅行については、車椅子の利用者が参加し易い方法も考えてゆきたい。

→車椅子利用者の参加が年々増えている（初めから車椅子だった利用者に加え、病気や加齢によって車椅子を利用する様になった利用者が出て来た。）事や、高齢重度化によって、余暇支援のスタイルも少しずつ変化して来ている。大きなところでは、移動手段（リフト車の利用）と行程（シンプル化）、ヘルパー数（必要人数増）があげられる。今後も現状に合わせて柔軟に対応したい。

余暇外出の予定は以下の通り。

5月 GW 宿泊旅行（南房総、1泊2日）

→参加者 35 名。車椅子の方の参加は正月旅行に比べて少なかった。大きな問題なく実施できた。

6月 ビール工場でバーベQ

→参加者 13 名。少人数の企画だが、電車移動のため低価格で実施できた。毎年恒例の人気企画である。

7月 バスハイク（群馬県）

→参加者 21 名。トロッコ列車に乗るなど普段経験しないことが出来た。車椅子の方には負担が大きい行程だった為か、重度の利用者

の参加者はいなかった。

8月 甲子園旅行（1泊2日）

→参加者21名。暑さの余り、駅で倒れ込んでしまう人がいた。また、試合観戦も1日1試合が限界だった。参加利用者の高齢重度化に伴い、夏の甲子園は今年度を最後とする事にした。

10月 バスハイク（山梨県）

→参加者26名。行程をブドウ狩りと温泉のふたつにして、時間にゆとりを持った内容で、のんびり過ごせたと好評だった。しかし、ブドウ農園で徒歩での移動距離が長かったため、疲れてしまう人が多く、改めて利用者の高齢化を実感した旅行となった。

11月 海外旅行（3泊4日）→サイパン2泊3日

→参加人数6名。JTBとのやり取りが上手くいかず、直前まで決まらない事が出てしまった。またJTBの今回の担当は新人社員で、障害への理解が不足、その点でも今までと違い問題が大きかった。現地スタッフの力量は問題なく、旅行自体は成功した。また、現地の移動はリフト車を頼んだため、車椅子での参加利用者や介助の職員への負担が少なく済んだ。

12月 都内ホテルでランチ→ドロップ主催忘年会

→参加人数12名。レストランの送迎車での移動という事で、自宅まで迎えに来て貰えると勘違いした利用者があり、出発が遅れてしまった。今後はインフォメーション時に誤解を招く様な書き方をしない様注意したい。また、他法人の利用者の場合は、世話人と電話確認をするなどして再発防止を心掛ける。

12～1月 正月旅行（2泊3日）

→参加人数62名。昨年度は1泊のコースも実施したが、2泊希望が大半で、またヘルパーも分散して支援しづらかった為、今年度は2泊のみにした。大型バス2台の内、1台はリフト車を手配したため、乗り降りの負担が少なかった。今後もリフト車の手配はマストであると感じた。また、薬を自己管理している利用者が薬を落とす事があった。今後は自己管理の利用者は、薬袋に名前を書いて貰うことにした。

3月 バスハイク

→甲子園旅行に変更した。参加人数9名。夏の甲子園を中止することにした為、急遽、企画した。夏と比べて参加人数が少なかったため、動き易かった。

ウ 手芸クラブ（月2回）、個人の手芸教室を開催する。

～手芸クラブ

利用者の希望を聞き、季節の行事なども意識しながら、偏りがないよう色々な手法でのプログラムを提供する。また、さくらほりきりの手作り作品展に出展し、鑑賞外出を行う。（10月）

→以下の活動を行った

4月：シーグラスで作るお裁縫箱（裁縫）

5月：個人手芸教室利用者、さくらほりきり春の作品展鑑賞外出の
為にお休み

6月：オリジナルノート作り（塗り絵・製本）

7月：籠バック（エコクラフト）

8月：籠バック（エコクラフト）

9月：ハロウィンのリース（エコクラフト・ワイヤーアート）

10月：さくらほりきり秋の作品展鑑賞外出

11月：スケジュール帳作り（裁縫）

12月：年賀状（貼り絵）

1月：牛乳パックで作るオーバルボックス（カルトナーージュ）

2月：ひな飾り（きめこみパッチワーク）

3月：スターアルバム（ペーパークラフト）

～手芸教室

個人の手芸教室を行い、その人に合った「もの作りの楽しさ」味わえるようなプログラムを提供する。また、さくらほりきりの手作り作品展に出展し、鑑賞外出を行う。（5月）

→月に1回、8人の利用者に個人手芸教室を行い、帰寮後や休日などの余暇に、手を動かし、もの作りが楽しめるプログラムを提供する事が出来た。また、5月には、さくらほりきり春の手作り作品展に出展し鑑賞外出を行った。

エ 公文教室へ参加する。

～個人学習会や添削指導を行い、脳の活性化を図る教材を提供する。

→月に1～2回、1名の利用者に30分の数や文字の学習を行った。

また、学習期間が長い利用者については、各利用者の生活スタイルに合わせて学習が続けられるように、GHの職員に学習方法などの引継ぎを行った。

②在宅の利用者及び高齢利用者のニーズに合わせた支援を拡充する。

余暇支援のみならず、通学通所通院同行、入浴介助、家事援助、見守りなど、在宅ならではのニーズに応じてゆく。

また高齢利用者特有のニーズにも柔軟に対応する。

→休日や日中活動がない平日の余暇支援、通院、通所後または放課後の余暇支援、在宅での見守り・入浴支援、ショートステイ先への送りなど、在宅利用者の多様な希望に応じて支援を行った。

③ヘルパーの質の向上

ア 必要な研修に参加し、援助技術を向上させる。特に、全身性障害者ガイドヘルパー研修をドロップの職員は全員受講する。

→行動援護研修に2名、初任者研修に1名が行っている。全身性障害者従事者研修および、居宅介護に関する研修は受ける事が出来なかった。来年度以降の課題としたい。

イ 支援報告書などから課題を見つけ、ヘルパー間の情報交換を密にするなどして解決方法を探り、次の支援に確実に活かしてゆく意識を持つ。

ウ ファイルマネージャーを活用し、支援報告書を誰でも閲覧し易くする事でGH職員と情報を共有し支援に活かせるようにする。

エ 支援力向上を主な目的としたGHスタッフのヘルパー兼務を引き続き行う。

オ ガイドヘルプのマニュアルを作成する。

カ 引継ぎミスを防ぐ為、引継ぎは基本、書面かメールで行う様にする。

→イ～カ、いずれも行う事が出来た。

④会議の開催

ドロップ会議を月1回開催する。また、その他に、ヘルパーミーティングも適宜行う。

→月1回の会議を開催した。ヘルパミーティングは行う必要がなく、実施しなかった。